

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月1日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 専務執行役員 (氏名) 青木 誠

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	61,603	5.8	12,558	10.1	12,969	9.9	8,729	13.7
21年3月期第3四半期	58,210	—	11,408	—	11,805	—	7,677	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	76.44	—
21年3月期第3四半期	65.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	108,181	80,582	74.5	705.67
21年3月期	102,344	74,151	72.5	649.22

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 80,582百万円 21年3月期 74,151百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	10.00	—	12.00	22.00
22年3月期	—	11.00	—		
22年3月期 (予想)				11.00	22.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	78,500	4.4	12,700	△2.2	13,200	△2.7	9,300	6.2	81.43

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 125,800,000株 21年3月期 125,800,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 11,607,474株 21年3月期 11,583,393株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 114,202,222株 21年3月期第3四半期 116,892,733株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における医薬品業界は、後発品使用促進策をはじめとした医療費抑制策が進められているなか、医療保険制度改革や薬価制度改定の論議が活発化し、一方では国内外の企業間競争がより激化するなど、引き続き厳しい経営環境のもとに推移しております。このような状況下、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）はグループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進してまいりました。

医薬品関連事業では、重点4領域（循環器、産婦人科、皮膚科、救急）にリソースを集中し、スペシャリティファーマーを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。

ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、616億3百万円、前年同期比5.8%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では、主力製品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」、持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」、および経口プロゲステロン製剤の子宮内膜症治療剤「ディナゲスト」の売上高が順調に伸長し、止血剤「トロンビン」および循環機能改善剤「ロコルナル」などの落ち込みがありましたが、売上高は588億5千1百万円、前年同期比6.0%の増収となりました。

ヘルスケア事業は市場が低迷している中、「コラーージュフルフルシリーズ」が新製品の寄与もあり好調に推移し、売上高は27億5千2百万円で、前年同期比2.4%の増収となりました。

次に当第3四半期連結累計期間の利益面ですが、医薬品関連事業での販売増による増収効果および売上原価率低下等により、営業利益は125億5千8百万円で前年同期比10.1%の増益となりました。加えてロイヤリティ収入等により、経常利益は129億6千9百万円で前年同期比9.9%の増益となりました。また、平成21年9月30日付で持田シーメンスメディカルシステム株式会社の所有株式の一部を売却したことによる株式売却益等により、四半期純利益は87億2千9百万円で前年同期比13.7%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、敗血症治療薬（抗体医薬）の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、抗うつ剤「MLD-55」の臨床第Ⅲ相試験、肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-0701」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、「ベセルナクリーム」の日光角化症を対象とした臨床第Ⅱ相試験、ヒト間葉系幹細胞を利用した細胞性医薬品「JR-031」の移植片対宿主病（GVHD）を対象とした臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験を実施中です。潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」は臨床第Ⅰ相試験を開始しました。また、医療用医薬品「エパデール」のスイッチOTC薬については製造販売承認申請中です。なお、抗うつ剤「MLD-55」については、持田製薬株式会社が製造販売承認取得後、田辺三菱製薬株式会社と日本における共同販売を行う契約を締結しました。

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は67億9千7百万円です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、1,081億8千1百万円となり、前連結会計年度末比で58億3千7百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に設備投資額が減価償却費の範囲内であったため、有形固定資産が減少しましたが、手元流動性資金が増加したためです。負債・純資産の増加は、主に長期未払金、未払法人税等の支払により負債が減少しましたが、純資産が四半期純利益により増加したためです。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、225億6千4百万円となり、前連結会計年度末比で21億8千7百万円増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払などがありましたが、税金等調整前四半期純利益などにより59億8千1百万円の収入（前年同期比2.7%減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社株式の売却による収入がありましたが、有形・無形固定資産の取得による支出などにより8億1千6百万円の支出（前年同期は20億1千万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより29億7千6百万円の支出（前年同期は58億1千7百万円の支出）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年10月26日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められない場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,565	19,286
受取手形及び売掛金	29,164	23,689
有価証券	8,319	8,311
商品及び製品	6,226	6,775
仕掛品	2,546	2,409
原材料及び貯蔵品	2,883	3,287
繰延税金資産	2,207	2,861
その他	1,369	1,502
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	75,275	68,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,380	7,696
機械装置及び運搬具(純額)	2,884	3,375
土地	6,088	6,088
建設仮勘定	357	144
その他(純額)	1,413	1,499
有形固定資産合計	18,125	18,805
無形固定資産		
投資その他の資産	1,453	1,309
投資有価証券	8,332	8,025
繰延税金資産	3,119	3,709
その他	1,874	2,376
投資その他の資産合計	13,326	14,111
固定資産合計	32,905	34,225
資産合計	108,181	102,344
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,108	7,689
短期借入金	800	1,100
未払法人税等	1,956	3,158
賞与引当金	1,462	2,651
その他の引当金	991	809
その他	7,316	6,030
流動負債合計	21,635	21,439
固定負債		
長期未払金	669	1,451
繰延税金負債	105	120
退職給付引当金	4,816	4,785
その他	370	395
固定負債合計	5,962	6,752
負債合計	27,598	28,192

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	81,990	75,889
自己株式	△10,696	△10,675
株主資本合計	80,395	74,314
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	186	△162
評価・換算差額等合計	186	△162
純資産合計	80,582	74,151
負債純資産合計	108,181	102,344

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	58,210	61,603
売上原価	22,027	22,639
売上総利益	36,183	38,964
返品調整引当金繰入額	25	6
差引売上総利益	36,158	38,958
販売費及び一般管理費	24,750	26,399
営業利益	11,408	12,558
営業外収益		
受取利息	82	47
受取配当金	188	192
ロイヤリティ収入等	530	399
その他	146	145
営業外収益合計	947	785
営業外費用		
支払利息	18	29
たな卸資産廃棄損等	162	—
持分法による投資損失	324	230
その他	44	113
営業外費用合計	550	373
経常利益	11,805	12,969
特別利益		
固定資産売却益	52	0
関係会社株式売却益	—	1,139
受取補償金	226	—
特別利益合計	278	1,140
特別損失		
固定資産除売却損	44	72
固定資産撤去費用	—	11
その他	5	7
特別損失合計	49	91
税金等調整前四半期純利益	12,034	14,017
法人税等	4,356	5,288
四半期純利益	7,677	8,729

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,034	14,017
減価償却費	1,933	2,052
固定資産除売却損益 (△は益)	△7	72
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△1,139
持分法による投資損益 (△は益)	324	230
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,117	△1,188
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△691	31
受取利息及び受取配当金	△271	△240
支払利息及び支払手数料	34	125
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,549	△5,474
たな卸資産の増減額 (△は増加)	393	816
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△86	130
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,730	1,418
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	346	1,125
その他	△1,086	△617
小計	10,989	11,361
利息及び配当金の受取額	273	241
利息及び手数料の支払額	△36	△126
法人税等の支払額	△5,078	△5,495
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,146	5,981
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5,220	△6,220
定期預金の払戻による収入	6,720	5,520
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,471	△1,277
有形固定資産の売却による収入	54	0
投資有価証券の取得による支出	△1,098	—
関係会社株式の売却による収入	—	1,170
その他	5	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,010	△816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△300	△300
配当金の支払額	△2,523	△2,629
自己株式の取得による支出	△2,991	△67
自己株式の売却による収入	—	44
その他	△1	△25
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,817	△2,976
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,681	2,187
現金及び現金同等物の期首残高	20,443	20,377
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,761	22,564

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

主要製品の売上高
(平成22年3月期 第3四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成21年3月期		当 期 平成22年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第3四半期 実績	年間 実績	第3四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	283	366	294	374	+ 4
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	103	132	119	150	+ 16
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	13	21	27	35	+ 110
抗ウイルス剤 アラセナーA	21	27	20	26	△ 5
膵炎・ショック治療剤 ミラクリッド	18	23	18	22	△ 2
自律神経調整剤 グランダキシン	14	18	13	17	△ 3
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	13	17	13	16	△ 1
止血剤 トロンビン	12	15	10	14	△ 15
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	11	14	11	14	+ 3
真菌症治療剤 フロリード	8	10	10	12	+ 26
循環機能改善剤 ロコルナール	8	10	7	9	△ 13
尖圭コンジローマ治療薬 ベセルナ	4	5	4	6	+ 13
スキンケア製品 コラージュ類	21	28	22	29	+ 4
スキンケア製品 スキナ類	5	7	5	7	△ 6

- 注) 1. ベセルナは平成19年12月、ディナゲストは平成20年1月に発売
 2. フロリードは、腔坐剤、D(クリーム)、D液、F注、ゲル(経口)、F点滴静注用0.267%の合計
 3. コラージュ類は、コラージュブランド全品目の合計
 4. スキナ類は、スキナブランド全品目の合計

医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
MLD-55(未定、エシタロプラム) : デンマーク ルントベック社から導入			
臨床第Ⅲ相	うつ病	経口剤	
MD-0701(未定、トレプロスチニル) : 米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	
MND-21(エパデール、イコサペント酸エチル)			
臨床初期第Ⅱ相終了	アルツハイマー型認知症	経口剤	< 効能追加 >
MR-20V(未定、ウリナスタチン)			
臨床第Ⅱ相	切迫早産	膣坐剤	< 剤型追加・効能追加 > 一時中断
MTD-39(ベセルナクリーム、イキモト) : 豪国アインバ・ファーマシューティカルズ社から導入			
臨床第Ⅱ相	日光角化症	外用剤	< 効能追加 >
JR-031(未定、ヒト間葉系幹細胞) : 日本ケミカルリサーチ(株)と共同開発			
臨床第Ⅰ/Ⅱ相	移植片対宿主病	注射剤	細胞性医薬品
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
* 臨床第Ⅰ相	潰瘍性大腸炎	経口剤	

*変更等のあった品目